

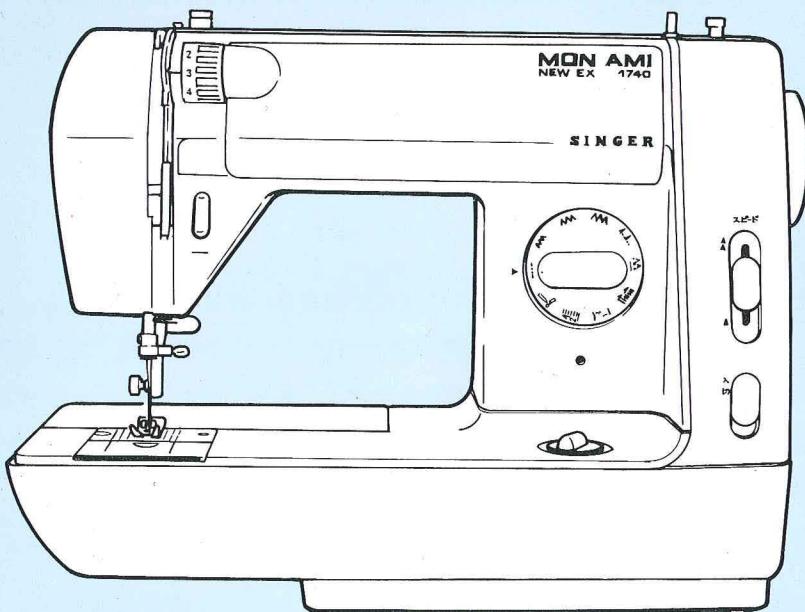
# モナミ NEW EX1740

ご使用の前に必ずお読みください

このミシンは大変使いやすくできていますので、この手びきにより使いかたが簡単におわかりいただけます。

**MON AMI**  
**NEW EX 1740**

## 使用の手びき



**SINGER\***  
シンガーミシン

# **MON AMI**

## **NEW EX 1740**

このたびはシンガーミシンをお買いあげいただきましてありがとうございました。

このシンガー1740型は電子頭脳によるスピード調節装置が内臓されており、また軽量で大変使いやすくしております。ご使用になる前にこの“手びき”をよくお読みいただき、末永くご活用ください。

### **シンガーミシンを安全にお使いいただくために次のことをお守りください。**

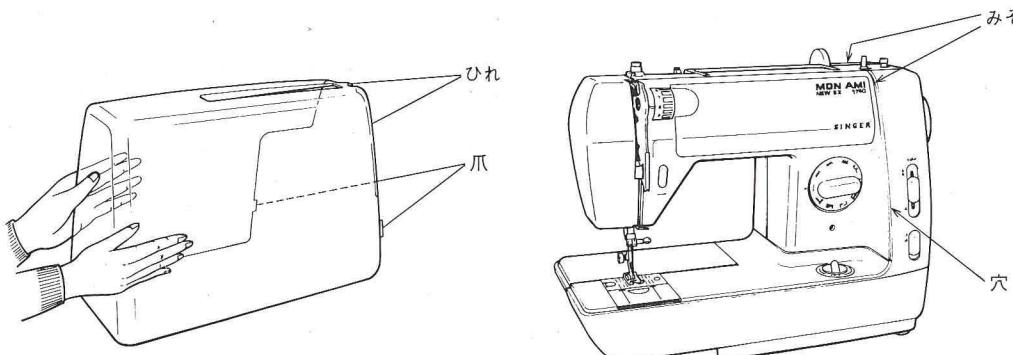
- ・ミシンを使用しないときや、停電などによりミシンから離れるときは、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントからはずしてください。また、ミシンの手入れをするときは、ミシンのスイッチ(電源)を切ってください。
- ・ミシンを低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく空転させてください。時間がたてば正常に作動するようになります。
- ・ミシンは直射日光にあてたり、高温多湿の場所におかないようにしてください。
- ・ミシンの汚れはベンジンやガソリンを使わずにせっけんまたは中性洗剤などを含ませたやわらかい布でよくふきとってください。
- ・裁縫をするときは手もとをよく見ながら針でケガなどせぬようご注意ください。

シンガー社は皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザイン又は付属品を変更することがあります。なお、ミシンをお使いになる上でご不審な点がある場合や部品の交換をなさる際はいつでもご遠慮なくお買いあげの店にお申しつけください。

## もくじ

ページ	ページ
1. 各部のなまえとはたらきを おぼえましょう ..... 2	6. いろいろな縫いかた ..... 14
2. 付属品 ..... 3	• 裁ち目かがり ..... 14
3. 電源を入れましょう ..... 3	• まつり縫い(プラインドステッチ) ..... 15
4. 縫う準備をしましょう ..... 4	• ボタンホール縫い ..... 16
• 下糸を巻きましょう ..... 4	• ファスナーフック ..... 18
• ボビンをセットしましょう ..... 5	• フリーアーム縫い(筒もの縫い) ..... 19
• 上糸をかけましょう ..... 6	7. ミシンの手入れ ..... 20
• 下糸をひきあげましょう ..... 7	• 掃除と注油 ..... 20
• 針の取りかえかた ..... 7	• ボビンケースのはずしかたと 入れかた ..... 21
• 針板のはずしかたと入れかた ..... 7	• 電球のとりかえかた ..... 21
• 縫い模様の選びかたとなまえを おぼえましょう ..... 8	8. ミシンの調子の悪い原因と 点検のしかた ..... 22
• 押えの取りかえかた ..... 9	
• 針と糸と布地の関係 ..... 9	
5. さあ、縫ってみましょう ..... 10	
基本縫い ..... 10	
• 直線縫い ..... 10	
• 基本ジグザグ縫い ..... 13	

### まず、ミシンカバーをあけましょう



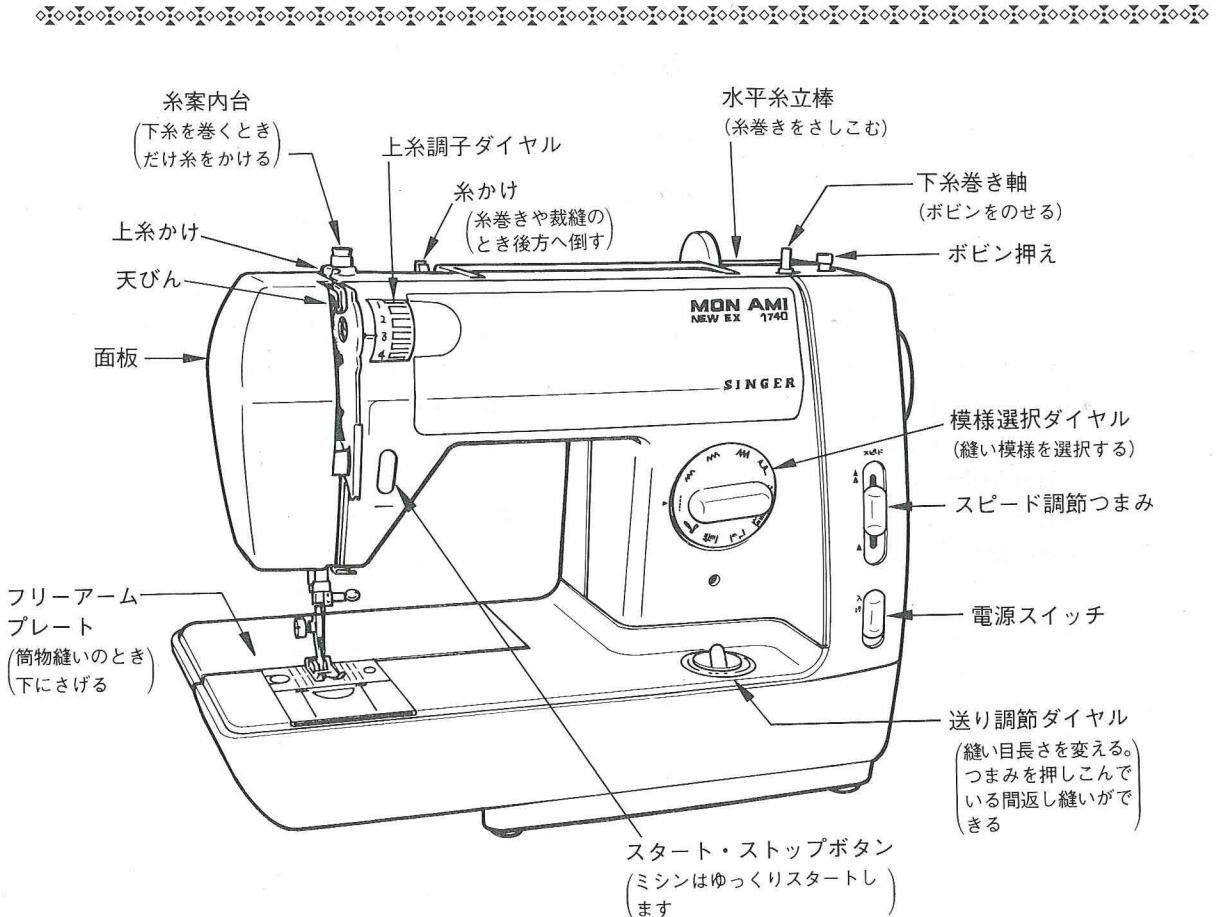
#### ●取りはずしかた

カバーを図のように持ち、手前を軽く持ち上げて“爪”をミシン本体の穴からはずし、そのまま上に引き上げます。

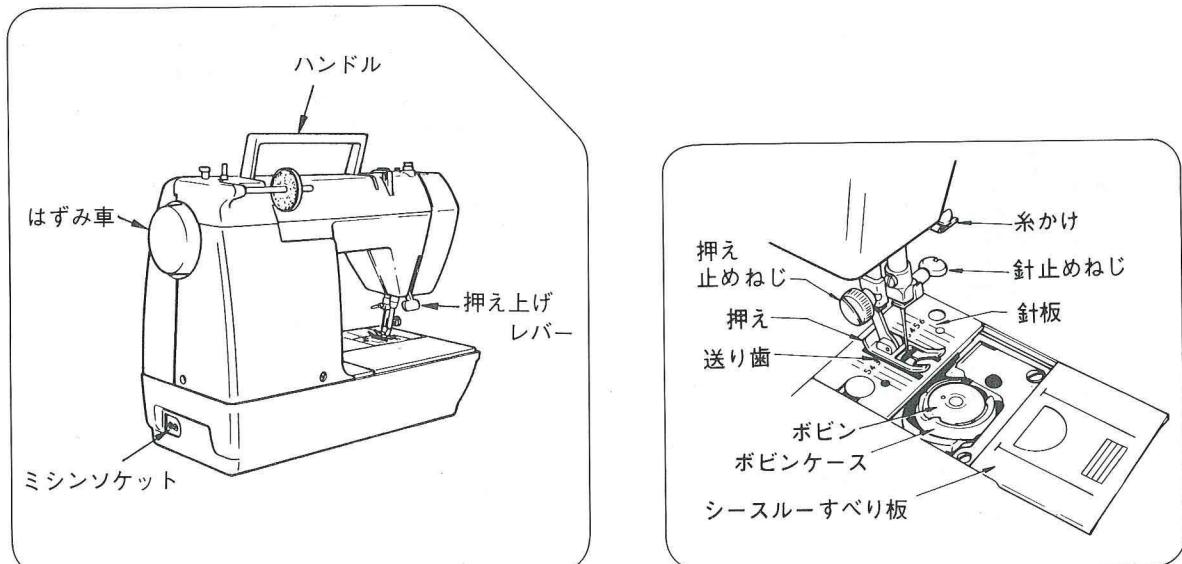
#### ●取り付けかた

ハンドルを立て、カバーを図のように持ってミシンにかぶせ、軽く押して“ひれ”を本体のみぞに、また、“爪”を穴に入れます。

# 1. 各部のなまえとはたらき



ミシンの本体色は白とピンクがあります。



フロントパネルの英文はデザインの一部でミシンの機能を説明するものではありません。

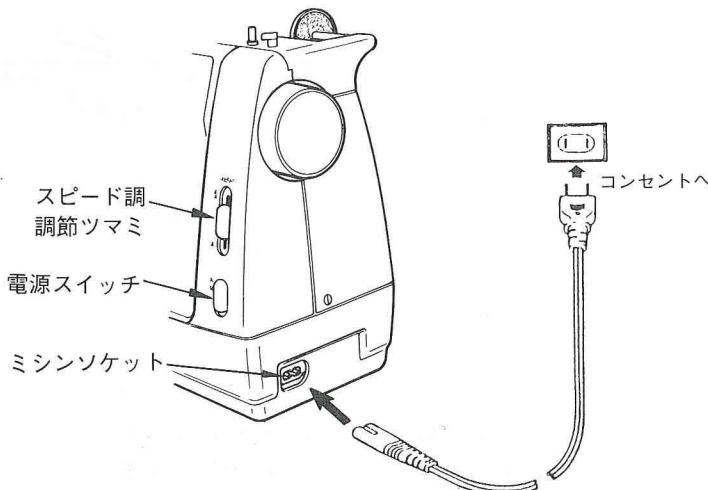
## 2. 付属品

ジグザグ用押え	針パック	ファスナーつけ押え	ボタンホール押え	ボビン
ジグザグ用針板	一般用針 ニット化繊用針	縁かがり押え	糸巻き押え (大) ミシンについて います (小)	ねじ回し (小) シームリッパー
この2つはミシンについています				

## 3. 電源を入れましょう

### プラグのさしこみかた

プラグコードを図のようにミシンのソケットにさしこみ、電源側のプラグをコンセントにさしこみます。



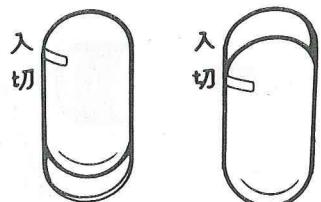
### ミシンの始動

電源スイッチを入れ、スタート・ストップボタンをおすとミシンがゆっくり動きはじめます。

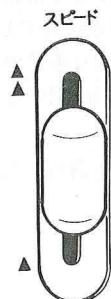
(安全のため最初はゆっくり動くようになっています)

- (注)
1. ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、またプラグコードもコンセントからはずしておいてください。
  2. 万一、裁縫中にミシンが止まり、モーターがうなるようなときは、いったん電源スイッチを切り、あらためて電源スイッチをおし、スタート・ストップボタンをおすと裁縫を続けてください。

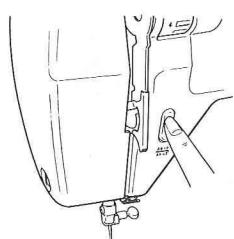
### 1. 電源スイッチを入れましょう。



### 2. ミシンのスピード調節ツマミをセットしましょう。

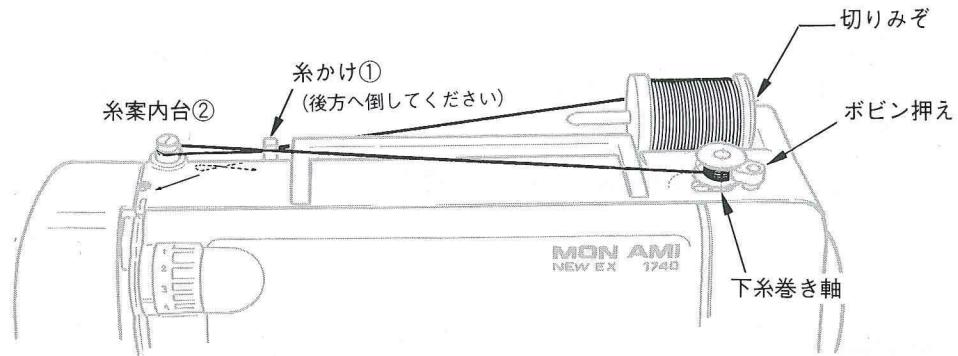


### 3. スタート・ストップボタンをおします。

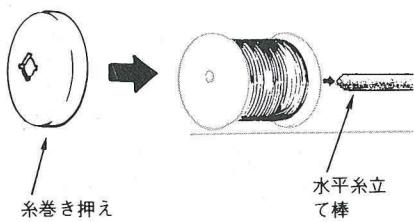


## 4. 縫う準備をしましょう

### 下糸を巻きましょう

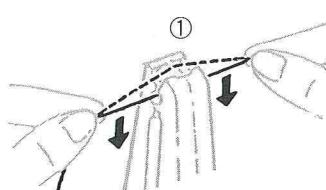


1. 糸巻きを糸立て棒にセットします。

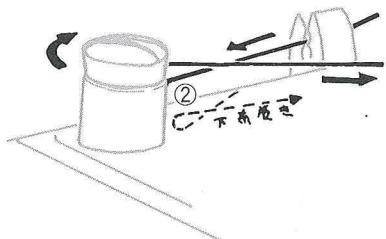


糸巻きに切りみぞがあるときはそれを右側にして糸立て棒にさしこみ、糸巻き押えでしっかりとおさえます。(切りみぞが左側になると糸切れの原因になります)。

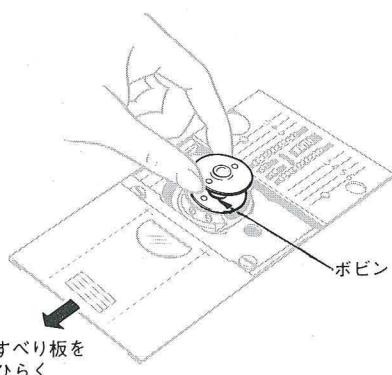
2. 糸かけ①を向う側へ倒し、糸をかけます。



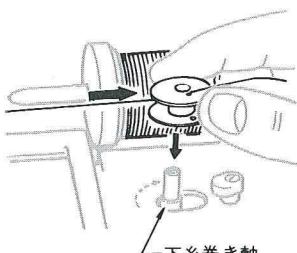
3. 糸案内台②へ図のようにかけます。



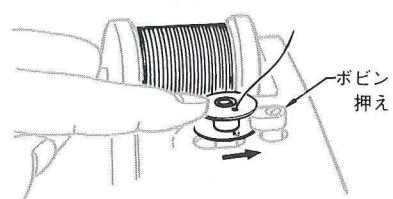
4. ボビンを取りだします。



5. 糸の先をボビンの上側のつばの穴に内側から通して、ボビンを下糸巻き軸にさしこみます。

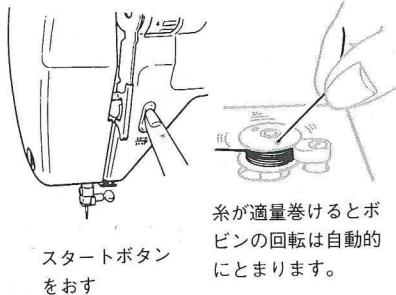


6. ボビンを右へ押しつけ、ボビン押えに固定します。

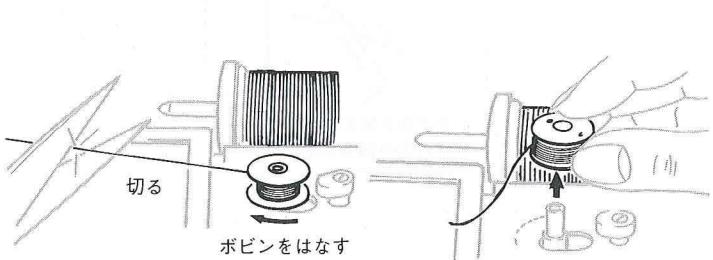


## 下糸を巻きましょう(つづき)

7. 右手で糸の先をしっかりとミシンを運転して巻きはじめます。少し巻けたら糸はしを切りすぐて、巻きつけます。

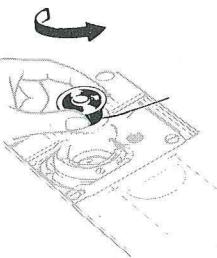


8. 巻きおわったらストップボタンをおしてミシンをとめ、ボビンを左へおしてボビン抑えからはなし、糸を切れます。



9. ボビンを糸巻き軸からはずします。

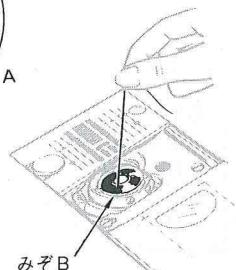
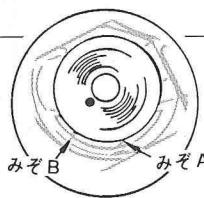
## ボビンをセットしましょう



1. 糸はしをボビンから10cmほどひきだしておき、ボビンが矢印の方向に回るようにしてボビンケースに入れます。

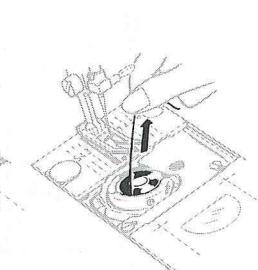


2. ボビンをかるくおさえて、糸をボビンケースの切りみぞAにかけて左にひっぱり.....



3.さらに切りみぞBにかけます。

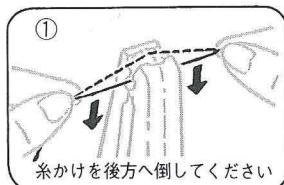
注:ボビンはボビンケースの中で左回転します。



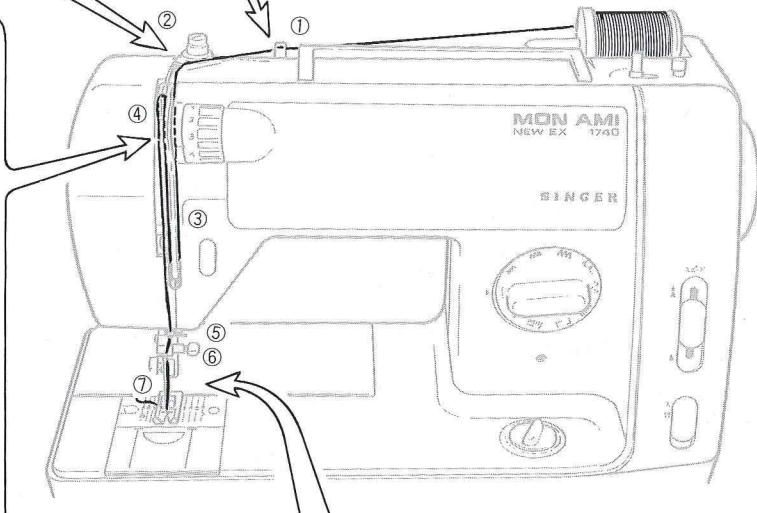
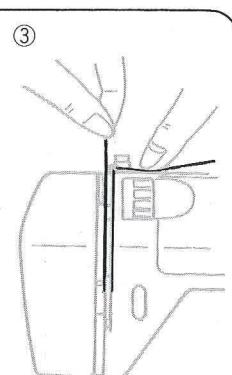
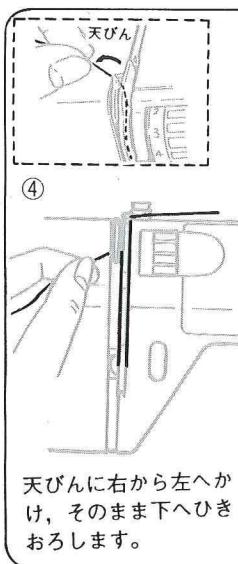
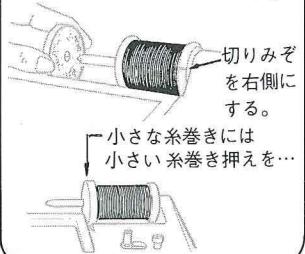
4.糸を矢印の方向にたおしてすべり板をしめます。

## 上糸を正しくかけましょう

上糸をかけるときは、押えを上げ、天びんは一番上まで上げておきます。  
糸巻きの糸を図の①～⑦の順に正しくかけてください。



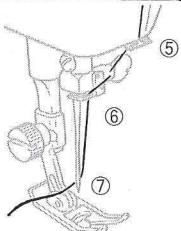
糸巻きをさしこみ糸巻き押えでしっかりとおさえます。



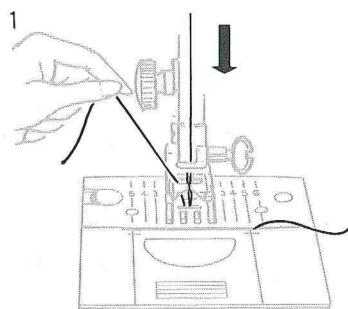
### 〈ご注意〉

糸のかけかたがまちがっていると縫えませんから  
正しくかけてください。

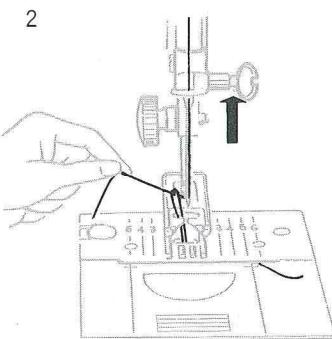
糸かけ⑤、⑥へかけ、針穴⑦に前から後へ通して糸はしを10cmほどひきだしておきます。



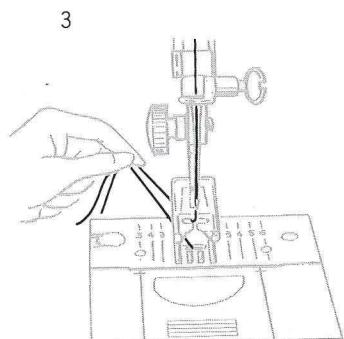
## 下糸をひきあげましょう



上糸のはしを左手でかるく持ち、はずみ車を手前に一回転させます。



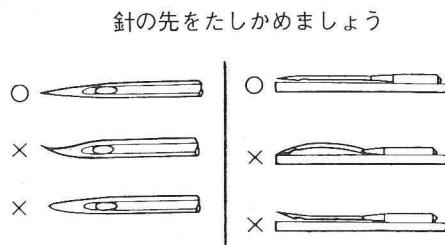
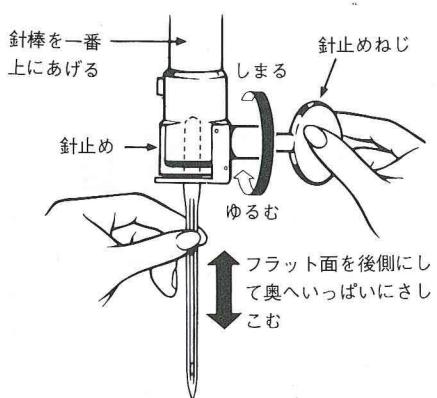
上糸をひき上げれば下糸はついででてきます。



上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へひきだします。

## 針の取りかえかた

安全のため、電源スイッチを切ってください。



先のつぶれた針やまがった針は取りかえましょう

### 針のとり出しお



針パック

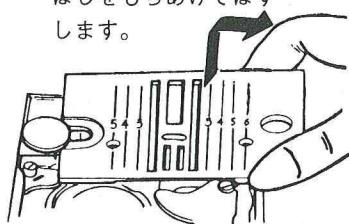


針パックの裏側をミシン目に沿って切りとり、必要な針を取り出して下さい。

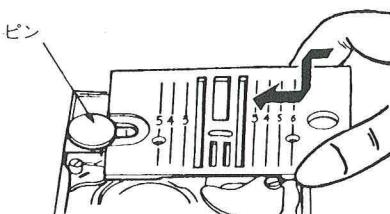
## 針板のはずしかたと入れかた

安全のため、電源スイッチを切ってください。

フリーアームプレートを押し下げ、手前の右はしをもちあげてはずします。

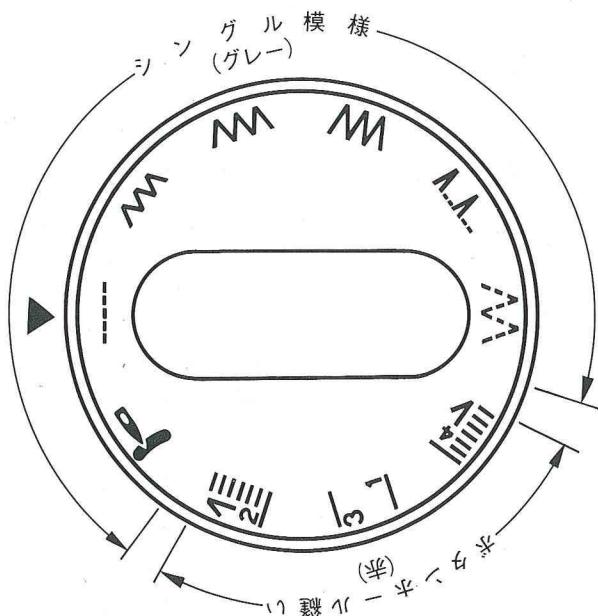


ピンにさしこんで固定します。



## 縫い模様の選びかたとなまえをおぼえましょう

模様選択ダイヤルを回してお望みの模様を▶印に合わせます。



送り調節ダイヤルを AUTO(自動) に合わせたときは、下表に示された縫い目で裁縫できます。

これより細かい縫い目で縫いたいときは、送り調節ダイヤルを回して調節してください。

模様	はし縫い	直線縫い	基本ジグザグ	ラインドステッチ	点線ジグザグ	ボタンホール
用途	ピンタック、はし縫いなど	普通の直線縫い	普通一般のジグザグ縫い、裁ち目かぎり、アップリケ、ボタンつけなど	まつり縫いやシェルタックなど	裁ち目かぎり、つくるい縫い、合わせ縫い、レーリスつけなど	ボタン穴かぎり
ジグザグ巾 (固定) mm	—	—	2 3 5	2.75	5	—
縫い目長さ (AUTO) mm	4	4	2 3 4	2	1	—
送り調節 ダイヤル	AUTOから0まで					AUTO又は
スピード 調節つまみ	お望みのスピード					中ほど以下にセット

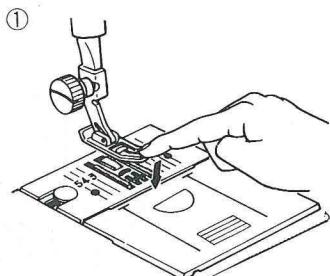
- 〈ご注意〉
- 模様選択ダイヤルを回すときは、必ず針を布地から上げてください。
  - AUTO の縫い目長さはおよその値です。

## 押えの取りかえかた

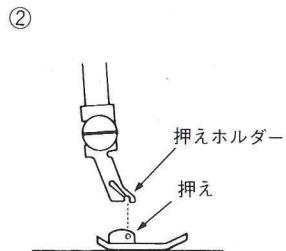
安全のため電源スイッチを切ってください。

針と抑え上げレバーをあげておきます……

●取りはずすときは……

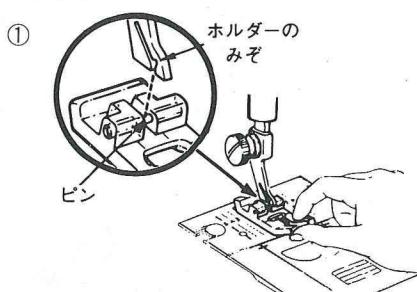


押えの先を指で下または  
上へ押すと……

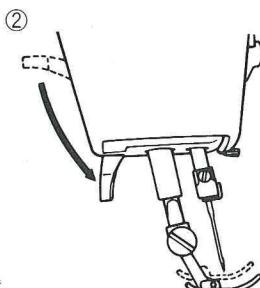


押えがはずれます。

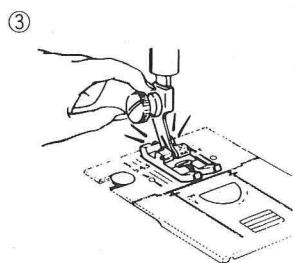
●取りつけるときは……



押えホルダーのみぞの真下に  
押えのピンがくるように押え  
を置き…



静かに押え上げレバーを下  
げてホルダーのみぞと押え  
のピンを合わせます。



押え止めねじを下へ  
つよく押すとカチン  
とはまります。

## 針と糸と布地の関係

きれいに縫うためには下表を参考にして布地に適した針と糸を使用してください。  
なお、上糸と下糸は普通同じ種類のものを使用してください。

布地の種類	糸の番号	針の番号	縫い目長さ (直線縫い)
薄地——オーガンディー、ジャージー、ボイル、タフタ、絹布	綿 80~100 絹 60~80 化繊糸80	9~11番	1.5ミリ
普通地——ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄コーデュロイ、別珍、ビニール、ツイール、一般服地	綿 50~60 絹 40~50 化繊糸50~60	11~14番	1.5~2ミリ
厚地——ギャバジン、ツイード、デニム、カーテン地、ビニール、コーデュロイ、ポンディングなど	綿 30~50 絹 30~50 化繊糸50	14~16番	2~4ミリ
化繊地や伸縮性の布地——ダブルニット、合わせニット、ナイロン、トリコット、スパンデックス、ジャージなど	綿 40~60 絹 40~60 ニット用糸	11~14番 ニット 化繊用針	1.5~2ミリ

注：直線縫い以外の縫い目の長さについては、それぞれの項をごらんください。

# 5. さあ、縫ってみましょう

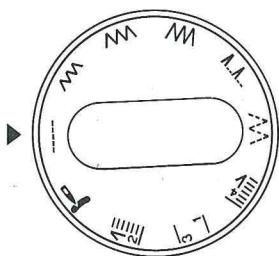
## 基本縫い

……すべての縫いかたの基本です。正しい使いかたをよくおぼえてください。

### ●直線縫い

#### 〈ミシンを合わせましょう〉

模様選択ダイヤル



ダイヤルを回して 模様を  
▶印に合わせます。

送り調節ダイヤル



ダイヤルの指示線を AUTO に合わせますと約 4 mm の縫い目長さがえられます。細かい縫い目をお望みの場合はダイヤルを回して AUTO から 0 の間で縫い目長さが調節できます。

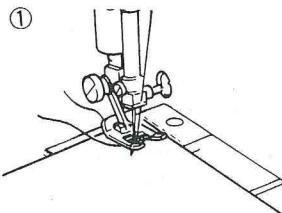
返し縫い



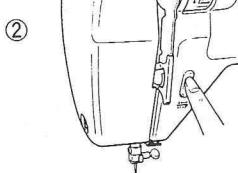
ダイヤルのつまみをいっぱいにおしこんだままミシンを運転します。  
〈注〉 ダイヤルを押しこむと途中で止まりますが、さらにいっぱいに押しこんでください。

#### 〈縫いかた〉

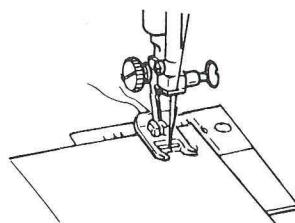
##### 縫いはじめの止め縫い



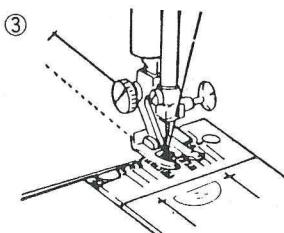
上糸と下糸を押えのうしろ側にひいておき、返し縫いの分だけ手前に布地をおきます。



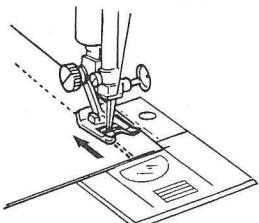
押えを下げ、送り調節ダイヤルのつまみを右手でいっぱいにおしこんだまま、スタートボタンを左手でおして、ほつれ止めの返し縫いをします。



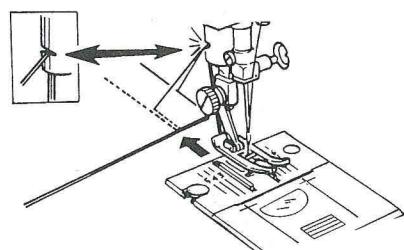
##### 縫い終わりの止め縫い



送り調節ダイヤルのつまみをはなして布地のはしまで縫います。



縫い終わりにもう一度ほつれ止めの返し縫いをリストップボタンをおしてとめます。

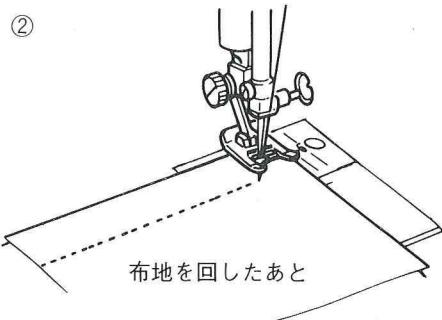
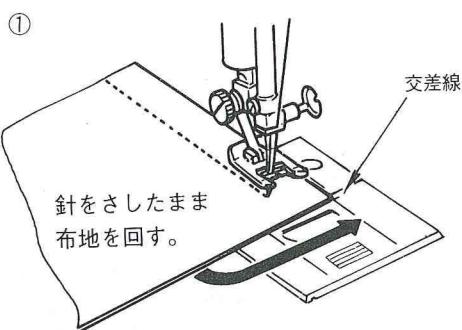


針と押えを上げ、布地をうしろにひいてはすし、押え棒の糸切りみぞで糸を切れます。

〈ご注意〉 布地は送り歯のはたらきによって自然に送られますから手で無理にひっぱったり押えたりせず導くだけにしてください。スタートボタンをおすとミシンがゆっくり動きはじめます。  
(安全のため最初はゆっくり動くようになっています)

## 〈角の縫いかた〉

針板とすべり板のガイドラインを活用しましょう…



布地のはしを針板の5の線に合わせて縫い、布地の下はしがすべり板の5の線上にある交差線にきたらミシンをとめ、針を布地にさしてから押えを上げます。

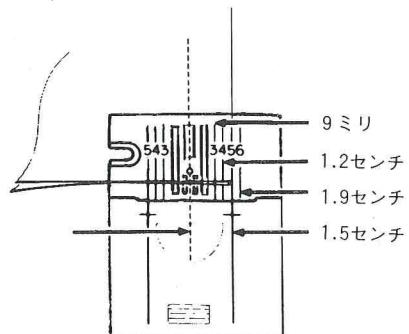
針をさしたまま布地を回し、布の下はしを5の線に合わせて縫いつづけます。

## 〈縫い線をまっすぐ縫うには〉

### ガイドラインの利用

布地のはしを針板のガイドラインに合わせて縫います。

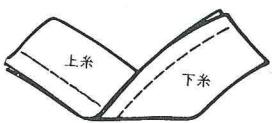
数字は針からの距離を示しています。たとえば布はしから1.5cmのところに縫いたいときは布はしを5の線に合わせて縫います。



## 〈上糸調子のとりかた〉

糸調子は布地の厚さや糸の種類によって変わりますから、上糸調子ダイヤルで正しく調整してください。数字の大きい方へ回すと上糸の調子は強くなります。

### ○ 正しい糸調子……



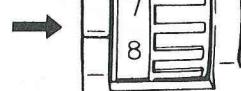
上糸と下糸が同じに見える

### × 上糸が弱すぎると……



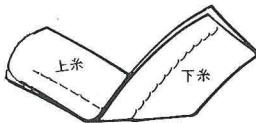
縫い目がゆるんで見える。  
上糸が裏に出る。

上糸調子ダイヤル

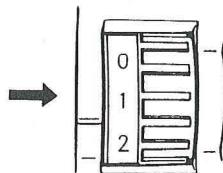


大きい数字の方へ回して  
糸調子を強くする。

### × 上糸が強すぎると……



上糸が布地の表面に直線状になる。  
下糸が表に出る。  
縫いいちぢみがある。



小さい数字の方へ回して  
糸調子を弱くする

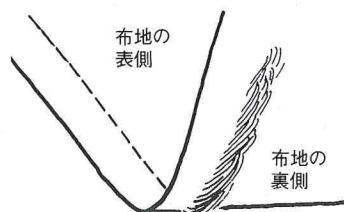
〈注〉 下糸の調子は工場で正しく調整されているので、ごく特殊な下糸以外は調整する必要はありません。  
もしどうしても調整が必要な場合、下糸調子を弱めるためにはボビンケースの向って左側の小ねじを左に回し、強めるためには小ねじを右に回します。

## 〈こんな場合は……〉

### ● 布地の裏側がタオル地のようになるのは……

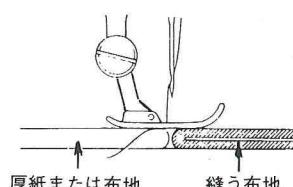
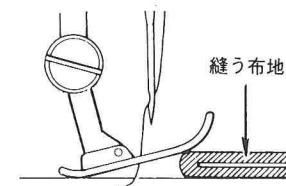
右図のように布地の表側は普通に縫えて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子がよいか上糸のかけたがまちがっています。6ページをごらんの上、正しくかけ直してください。

また、上糸調子の調節のしかたは上記をごらんください。



### ● 厚地を布はしから縫うときは……

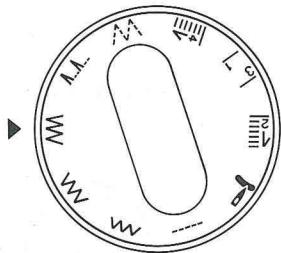
右図のように、押えが傾いて布地がスムーズに送られず、縫えません。このようなときは、使用する布地と同じ厚さの布地または厚紙を押えの下にあてがって縫い始めてください。



## ● 基本ジグザグ縫い

〈ミシンを合わせましょう〉

模様選択ダイヤル



ダイヤルを回して  $\xi$ (大) 模様  
を▶印に合わせます。

送り調節ダイヤル



ダイヤルの指示線を AUTO に合わせますと  
約 4 mm の縫い目がえられます。細かい縫い  
目をお望みの場合は、指示線を 0 の方へま  
わして調節できます。模様  $\xi$ (中),  $\xi$ (小) で  
縫う場合は、8 ページの表を参照してくだ  
さい。

〈上糸調子のとりかた〉



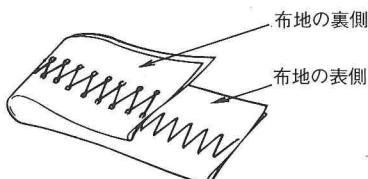
〈注〉 上糸調子の調節については,  
12ページをごらんください。

X  
布ちぢみ  
○ 良

あら目の縫い目

X  
布ちぢみ  
○ 良

こまかな縫い目



布の裏側に上糸が少しで  
ぐらいに糸調子を調節する  
ときれいに縫えます。

## 6. いろいろな縫いかた

### 裁ち目かぎり

ズボン、スカートなどの縫いしろや布縁のほつれを防ぐ縫いかたです。  
裏地をつけない肩、股上、股下、袖下などにも利用できます。

#### 〈ミシンを合わせましょう〉

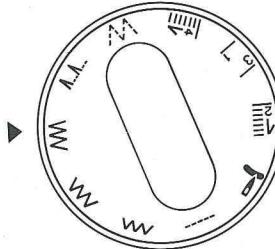
縫かぎり押え



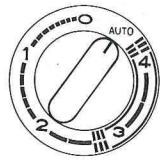
##### 〈ご注意〉

縫かぎり押えを使うときは、縫い模様は  
△(大)以外は使わないでください。針が  
押えにあたって折れ、危険です。

模様選択ダイヤル



送り調節ダイヤル



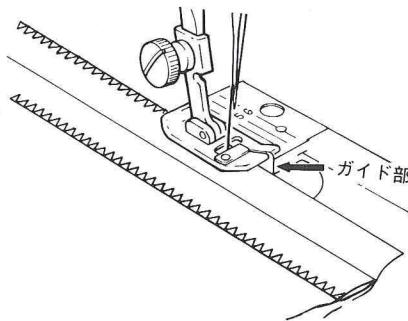
△(中) △(小) 又は △で縫いたいときは、  
ジグザグ用押さえをご使用ください。

△(大)に合わせます。

AUTOに合わせます。

#### 〈縫いかた〉

布はしをまっすぐに裁ち、縫かぎり押えのガイド部に布はしをぴったりあててかがります。縫いち  
ぢみがなく、まっすぐきれいに縫えます。



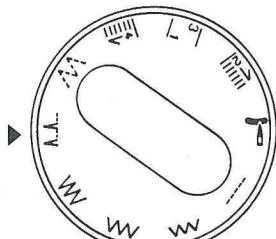
- 糸調子は上糸と下糸が布地の裏側で交差するように調節してください。
- 薄い布地の場合は布はしを2つ折りにするときれいに縫えます。

## まつり縫い(ブラインドステッチ)

布地の表に縫い目が見えないように縫う方法です。  
この縫い目はズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、  
カーテンの端の折り返しなどに利用できます。

### 〈ミシンを合わせましょう〉

模様選択ダイヤル



ダイヤルを回して ▶ 模様を  
▶印に合わせます。

送り調節ダイヤル

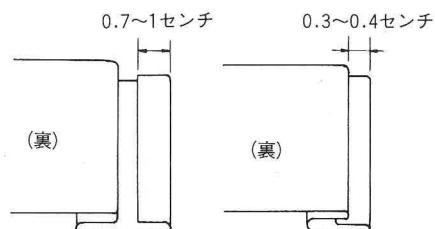


AUTOに合わせます。

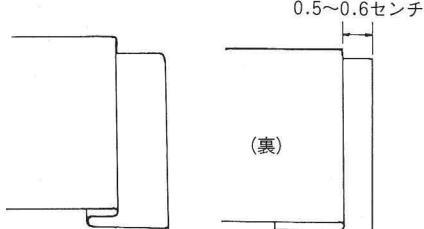
### 〈布地の折りかた〉

下図のように布地を折ります。

#### ●薄地の場合



#### ●普通地および厚地の場合

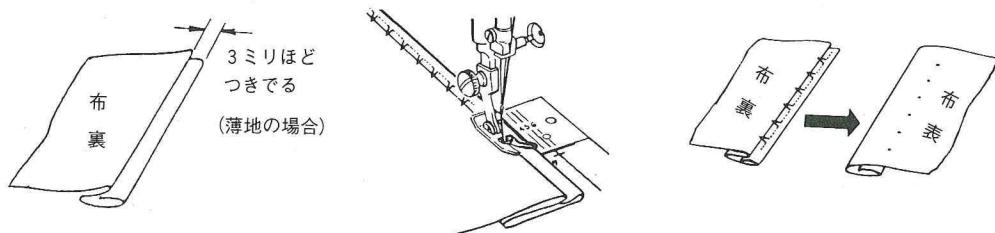


### 〈縫いかた〉

①布地の裏側を上にして布地を図のように三つ折りにします。

②直線の縫い目が下の折り山を縫い、左に落ちる針が上の折り山にわずかにかかるように縫います。

③縫い終わったら布地を表にひろげます。

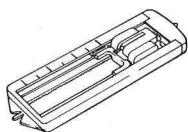


〈注〉 左側に落ちる針が必要以上にかかりすぎると布が開かず、表側に出る縫い目が大きくなり、きれいに仕上りません。

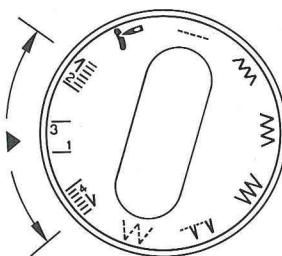
## ボタンホール縫い

〈ミシンを合わせましょう〉

ボタンホール押え



模様選択ダイヤル



送り調節ダイヤル



ボタンホールのマークに合わせます。(縫いかたの項参照)

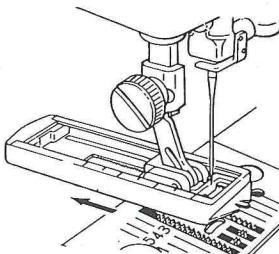
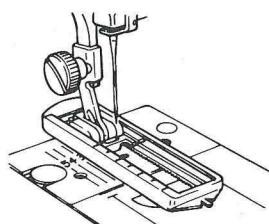
AUTO または赤色の範囲に合わせます。

### 〈準備〉

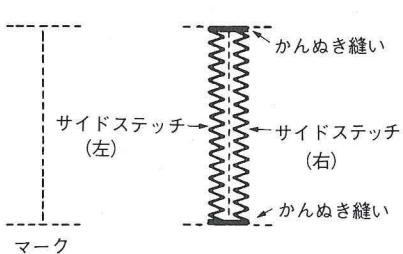
#### 1. ボタンホール押えを取りつけます。

- ボタンホール押えを赤い目盛りが左側にくるようにして取りつけます。

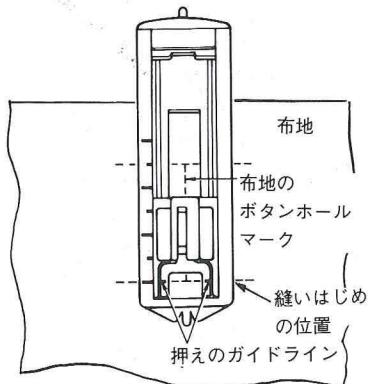
(交換のしかたは 9 ページをごらんください。)



2. ボタンの大きさと厚さ、布地の種類に応じてボタン穴の長さをきめます。ボタンの直径+厚み、これを布地にマークします。



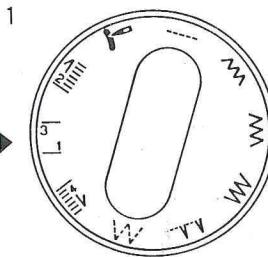
3. 布地を押えの下におき、押えの赤いガイドラインを布地のボタンホールのマーク(縫いはじめの位置)に合わせて押えを下げます。



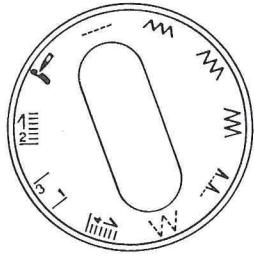
### 〈注〉

- ミシンのスピードはゆっくり縫ってください。
- ボタンホールを縫う前に、同じ布のはぎで必ずためし縫いをして下さい。
- ごく薄い布地を縫うときは、裏側に薄い紙をあてるか、または布と布の間に芯地を入れて縫いますと布地の伸びちぢみを防ぎます。

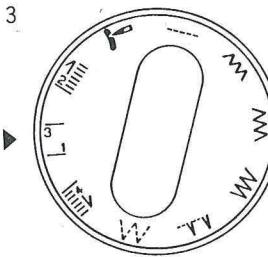
## 〈縫いかた〉



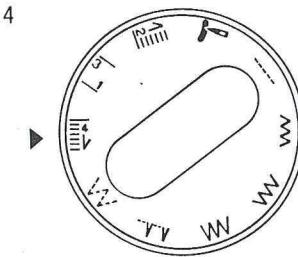
ダイヤルの1を▶印に合わせて、スタートボタンをおし、4~5針かんぬき縫いをしてミシンをとめ、針を上げます。



ダイヤルの2を▶印に合わせて、スタートボタンをおして、ボタンホールの右側をボタンホールの長さまで縫い、ミシンをとめ針を上げます。



ダイヤルの3を▶印に合わせ、スタートボタンをおして、4~5針かんぬき縫いをしてミシンをとめ針を上げます。

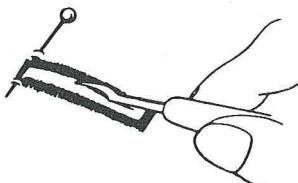


ダイヤルの4を▶印に合わせて、スタートボタンをおして、左側を縫いはじめの線まで縫い、ミシンをとめ針を上げます。  
なお、送り調節ダイヤルを0に、模様選択ダイヤルを上に合わせて2~3針止め縫いをしてください。

## 〈縫いおわりましたら……〉

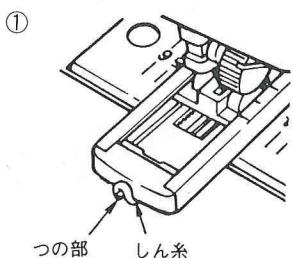
布地をはずして糸を切り、シームリッパーで縫い目を切らないようにボタン穴を切りひらきます。

なお、ボタンがボタン穴を自由に通るかどうかたしかめてください。

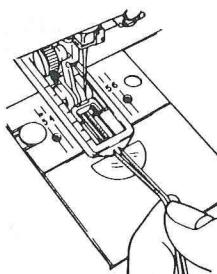


## 〈しん糸入りボタンホール〉

伸縮性のある布地や、丈夫なボタンホールに……



しん糸をボタンホール  
押えのうしろのつの部  
にひっかけて……



押えの下から手前にひき、  
切りこみにしっかりはさんでひものはしをしっかりと  
りもって縫います。

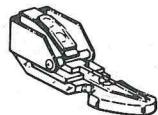
縫いあげましたら、しん糸を押えのつのからはずし、布地をミシンからはずして、図のようにしん糸の両端をひいてたるみをなくし、余分のしん糸を切りとります。



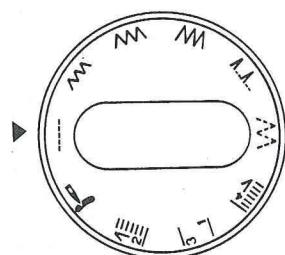
## ファスナーつけ

### 〈ミシンを合わせましょう〉

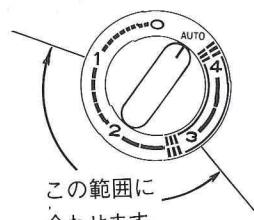
ファスナーつけ抑え



模様選択ダイヤル

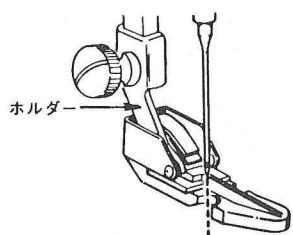
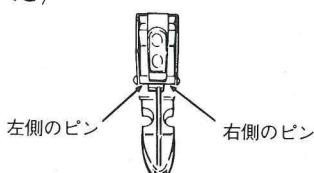


送り調節ダイヤル

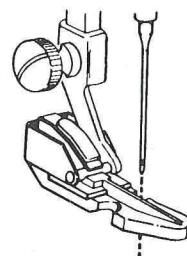


ダイヤルを回して模様を  
▶印に合わせます。

### 〈ファスナーつけ抑えの取りつけかた〉



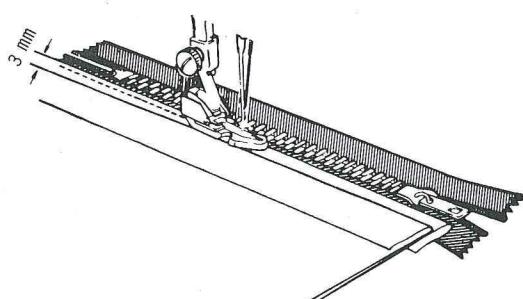
ファスナーの右側を縫うとき  
は押えのホルダーを左側  
のピンに取りつける——左  
のみぞに針を落とします。



ファスナーの左側を縫うとき  
は押えのホルダーを右側  
のピンに取りつける——右  
のみぞに針を落とします。

### 〈縫いかた〉

縫い代を3ミリ持ちだし、その下  
にファスナーをおきます。  
押えとファスナーの歯が平行にな  
るように縫います。

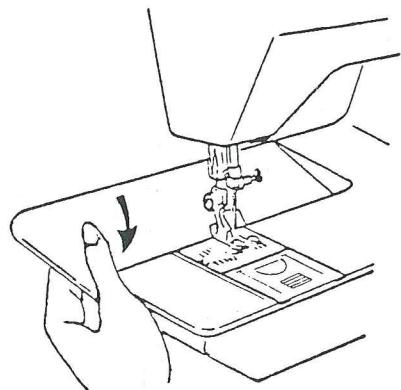


## フリーアーム縫い(筒もの縫い)

袖口やスリーブ、ズボンなど筒状のものや袋物など普通のミシンでは縫いにくいところを縫うのにフリーアーム（筒形ベッド）を利用すると布地の扱いが簡単になり、大変便利です。

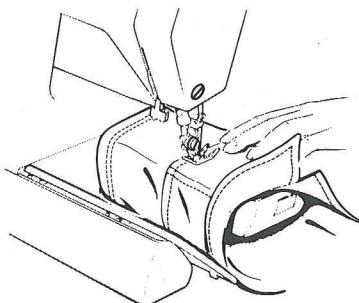
フリーアームにするときは、図のようにプレートをおしさげます。

普通の縫いにもどすときは、プレートをパチンととまるまでもちあげます。

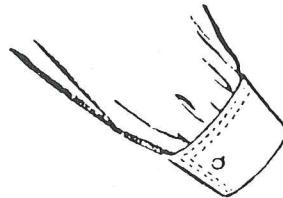


フリーアームはこんなところにご利用ください。

袖つけに……



袖口の飾りステッチに……



ブラウスの袖の飾り縫いに……



帽子の縁飾りに……



# 7. ミシンの手入れ(いつも調子よく)

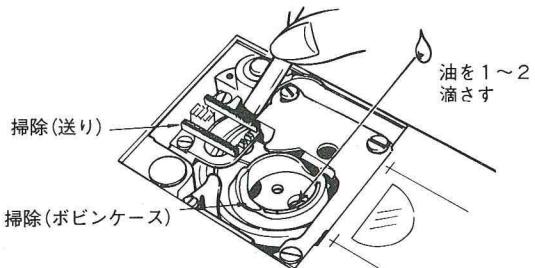
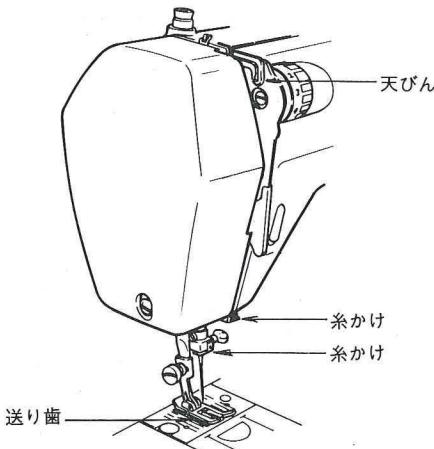


## 掃除と注油

〈ご注意〉 掃除の前に必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。ミシンを長もちさせるためには日常の手入れが大切です。一般には、注油を必要としませんが、長期間使用しなかったミシンは、使う前に注油および一通り掃除をしてください。

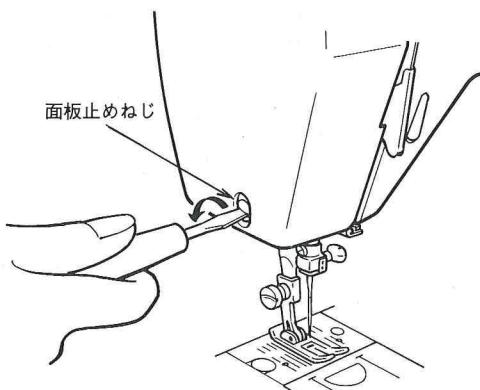
ミシン本体の汚れ、および図の矢印で示した個所にたまつた糸くずやほこりを乾いた布で掃除してください。

すべり板をひらき、針板をはずして(7ページ参照)送り歯やかまのまわりを掃除してください。

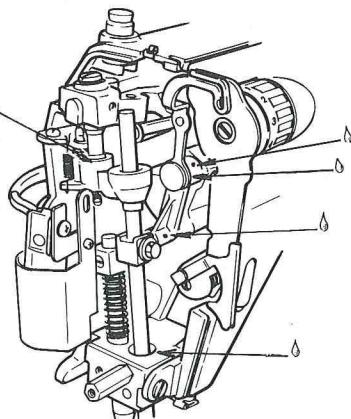


### ●面板内部の注油

面板止めねじをゆるめてはずし、面板を左にひきぬいてください。

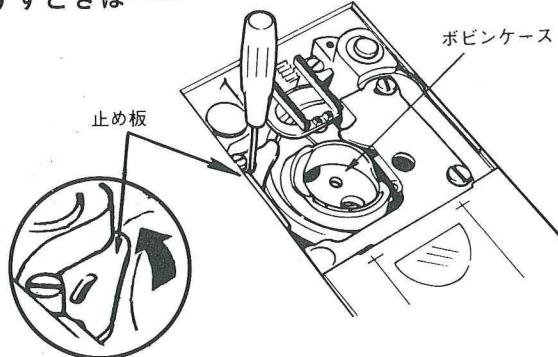


矢印のところに油をさしてください。



## ●ボビンケースのはずしかたと入れかた

はずすときは……



針をあげ、すべり板をひらき、針板をはずし、ボビンを取りだします。ボビンケース止め板のみぞにねじ回しをあてて止め板を矢印の方向にねじり、ボビンケースを左にねじって取りだします。

入れるときは……



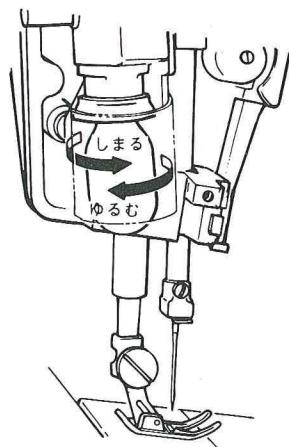
図のようにボビンケースをもってつばが押え板の下に入るようにしてボビンケースを入れ、止め板を矢印の方向にもどして固定します。

## 電球の取りかえかた

〈ご注意〉 電球を取りかえる前に必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。

このミシンは100ボルト、15ワットの電球を使います。15ワット以上の電球は使用しないでください。

面板を取りはずし、電球を図のように回して取りかえます。



#### 8. ミシンの調子の悪い原因と点検表

原因	なおしかた	
布地の裏側がタオル地のようになるのは	上糸のかけかたがちがっているとき 上糸調子ダイヤルが0になっているとき	正しく通します。6ページ参照 12ページ参照
針が折れるのは	細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を使ったとき 針の取りつけかたが悪かったり、曲った針を使用したとき 布地を無理にひっぱったとき 針止めねじがゆるんでいるとき 針が布地にさっているときに模様選択ダイヤルを動かしたとき 押えがゆるんだりして針にあたったとき	正しい針と取りかえます。9ページ参照 7ページ参照
糸が切れるのは	上糸のかけかたがちがっているとき 針が曲っていたり、先端がつぶれているとき 針が糸の太さと合っていないとき 上糸の調子が強すぎるとき 針の取りつけかたがちがっているとき ボビンケースのまわりに糸くずやごみがたまっているとき ボビンがボビンケースに正しく入っていないとき 上糸の調子がつよすぎるとき 糸巻きのつばについている切りみぞを左側にセットしたとき	正しく通します。6ページ参照 正しい針と取りかえます。 9ページ“針と糸と布地の関係”参照 12ページ“上糸調子のとりかた”参照 7ページ参照 掃除します。20ページ参照 5ページ参照 12ページ“上糸調子のとりかた”参照 切りみぞを右側にします。6ページ参照
縫い目がとぶのは	針が曲っていたり、針先がつぶれているとき 針が糸の太さと合っていないとき 上糸のかけかたがちがっているとき 針がしっかり取りつけられていないとき 針・糸・布の素材が合っていないとき	正しい針と取りかえます。 9ページ“針と糸と布地の関係”参照 正しく通します。6ページ参照 しっかり取りつけます。7ページ参照 9ページ参照
布地を送らないのは	送り調節ダイヤルの指示線が0の位置にあるとき 針板と送り歯の間にほこりがついているとき 模様選択ダイヤルがボタンホール1.3になっているとき	指示線をAUTOの方へ近づけます。 掃除します。20ページ参照
布地が縮むのは	上糸の調子がつよすぎるとき 上糸のかけかたがちがっているとき 布地と縫い目の長さが合っていないとき	12ページ“上糸調子のとりかた”参照 正しく通します。6ページ参照 9ページ参照
ボビンに糸が巻けないのは	上糸が糸立棒からスムーズにほぐれないとき ミシンに糸が正しく通されていないとき ボビンを右へ押してボビン押えに固定しないとき	4ページ“ボビン(下糸)の巻きかた”参照
ミシンの回転が重い、音が高いのは	油がきれているとき 送り歯にごみがたまっているとき カマの部分に糸くずが巻きこまれているとき	掃除します。20ページ参照
ミシンが動かないのは	ミシンのプラグコードがミシンソケット又はコンセントにさしこまれていないとき ミシンの電源スイッチが入っていないとき スタートボタンをおさないとき 下糸巻き軸が右に押されているとき	3ページ参照 3ページ参照 3ページ参照 4ページ参照

メモ



さあ、うまく縫えたでしょうか!!

メモ



# 修理サービス要領

## ◎修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。
2. 修理サービスは、無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談下さい。
3. 修理サービスについてお問合せやご不審のある場合は、別掲の各地区にある「お客様相談係」にお申し越し下さい。

## ◎修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

## ◎無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談下さい。
  - イ. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき
  - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき
  - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき
2. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき
  - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき
3. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

135年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

**SINGER**  
シンガーミシン

Form U3637 (改387)  
Part. No. 379031-001 (改3)